



★ 十條製紙のクラフト・パルプ工場建設もすむ。

船舶の接岸できる港湾施設の整備をはかることが急務である。

立地条件の整備計画はこうなっている

それでは八代地区の工業立地条件の整備がどのように計画され、将来この地帯がどのように変貌するかについて述べよう。

八代港を拡張整備

工場の拡張、誘致計画に伴う海上輸送の増加に対処する八代港の整備は、総経費十七億二千万円、うち第一期工事費五億八千万円（公共事業費四億一千八百万円、単独事業費一億六千二百万円）を以

- て行われる予定である。
- 第一期計画では
- 1 水深九米、延長一七〇米の岸壁（外貨埠頭一万吨級一隻横着可能）
 - 2 埋立地三八、〇〇〇坪、導流堤七七五米の延長並びに干拓堤防利用の道路の造成を行い、
 - 3 第二期工事では
 - 4 水深九米、延長一七〇米の岸壁（北埠外港用）
 - 5 これに隣接する水深五・五米、岸壁七〇〇米（内貨向埠頭）
 - 6 臨海鉄道及び道路の敷設
 - 7 その他物揚場二〇〇米及び附帯施設の整備などを計画している。
- 第一期工事は昭和三十三年、四年の両年度で完成する予定であり、まさに力強い建設費が奏でられんとしている。

鹿兒島本線の複線化と八代駅輸送施設の増強

県内の鉄道輸送力は現在においても既にその限界に達しており、更に今後飛躍的な増大が予想されるので、先般期成会を結成して県民一丸の運動を続けて来たが、この結果最近久米一八代間一・八・四杆の複線化が国鉄整備五カ年計画に乗せられ総経費約五十二億円を以て三六年度までに完成されることとなり、本県の産業発展に対する輸送面からの制約も除かれる見通しとなった。

又八代駅の改修は、熊本駅の拡張及び複線化の問題とも関連して、将来約六億円の経費で球磨川駅を移転し、貨物操作場を新設して客貨分離による輸送能力の増強が考えられているが、現在既に生じている当面の輸送力不足を補うため、差当り明三三年度に先づ貨物接受線、構内側線の延伸を実施することになっている。

百万坪の工業用地を造成

当地区には埋立可能地二〇〇万坪があるが、うち第一期計画として八代港湾計画と関連させ浚渫土量三〇六万立方メートルを利用して三七万坪の臨海工業用地を造成し、既存の工業適地七〇万坪余と合して

工業用水道の建設

従来地下水に依存している既存工業の今後の拡張による用水不足並びに新たに臨海工業用地などに誘致する工場の用水を賄うため、古田ダムの建設計画と関連して工業専用水道を布設し、料金金当り一円前後を目途とし、球磨川の余水のうち一秒間六・五立方メートルを取水し給水する計画である。

八代地区工業開発今後の方向

次にこのような既存の産業基盤及び将来整備される立地条件の上に、八代地区の工業が現在どのように築き上げられ、今後どのように伸展して行くかを眺めてみよう。

先づ現況をみると、当地区には中央資本（地場資本でない）による大工場が密集し人口規模に比較してその生産額も高く、昭和三十一年度興国人絹、十條製紙（八代、坂本両工場）、日本セメント、

三葉酒造、日産化学の六大工場合せて年間生産額は一七四億円に達しているが、これらの各工場は概ね昨年より機械設備の近代化を狙った増設工事を行い、現在十條製紙のクラフト・パルプ工場を除いてその他は既に完成している。その投資総額は合せて六十五億円余に達しているが、今後の増設によりその生産能力は一躍一、五倍乃至二倍に伸びている。

将来の工場誘致

一方工場誘致については、クラフト・パルプ工場に続き、日東製紙の竹パルプ工場の設置が決定しており、その他ソーダ、肥料工場などの進出を見んとしている。

なおこの外、将来誘致を期待され得る有望工業としては、カーバイト工業（石灰石、石灰、電力）、塩化ビニール、塩化ビニリデン（カーバイト、塩素）、ピロリン（カーバイト、用水）、アセチレン（用水）、S、C、P（広葉樹、用水）等が挙げられるが、今後立地条件の整備とともに漸次これら諸工場の新設が見られるであらう。

郷土の産業

家具工業

★熊本県は全国有数の林産県だ。家具用材として、ナラ、ブナ、サクラ、シオジ、ケヤキなど多量に豊富で、家具工業発展の余地十分というところ。

★通産省の重要木工具の指定を受けたが産振計画でも重要業種としてその振興を図っている。生産高は年間三億円を超えるが、大部分が官庁学校会社等の受注生産。

★ところがデパートなどの既製家具は九〇%までが福岡県の大川産だ。県内の家具販売高は年間約四億円。この大部分が県外製品というから残念なことだ。官庁会社等の受注生産には限度があるから、今後はどうしても既製家具へ進出しなければならぬ。

★販路開拓の目標は県内は勿論北九州、

このような既存各工場の拡張並びに今後の工場誘致に伴い、昭和三十五年度には年間生産額は三五〇億円余に達するものとみられ、これに伴って雇用の増大も大きく期待される。

明日の工業都市八代 県民の総力を結集して実現しよう

以上が八代地区工業開発の構想と問題点であり、しかも本計画は明三十三年度から本格的建設の実施段階に入らんとしているが、県民の総力を挙げてその実現に邁進すればやがて老衰期に入った北九州工業地帯に代つて青年期にある八代工業地帯が九州日本の重要な工業都市として発展する日もそう遠くはあまい。

京阪神、東京等の大消費地。だがその方面の問屋筋の県産家具に対する批判は手さびしい事を忘れてはならない。

★県でもさき頃「家具工業振興協議会」を結成したが、当面の方針として

- ①業界の組織化
- ②デザインセンターの設立
- ③問屋機構の確立
- ④販路開拓のための見本市開催をもちこんでいる。

★県の工業試験場も木工部を二六年の末に川尻から熊本市春竹町に移して施設人員をうんと充実させた。六〇石入人工乾燥設備、ラジオヒーターその他の新鋭機械も設置して業界の利用に供しているが仲々の好評。その他、デザイン改善指導、新製品の試作、技術指導、技能者養成などに一生懸命だ。

★何はともあれ、県産家具の特質である材質の良さ、良心的な工作、頑丈であることなどを認識して、大いに愛用したいものだ。

郷土の産業

